

2024年3月期 第3四半期
決算説明会
2024年2月8日
森永製菓株式会社

将来予測・業績予想について

本資料には、当社（連結子会社を含む）の見通し、計画、目標など将来に関する記述が含まれておりますが、これは当社が現在入手している情報に基づく判断や仮定を基礎としたものであり、将来における当社の実際の業績または展開と異なる場合があります。

高木：皆さん、こんにちは。森永製菓株式会社、最高財務責任者の高木です。弊社の2024年3月期第3四半期の決算説明会に、お忙しい中ご参加いただきまして、ありがとうございます。

最初に主なポイントについて確認し、その後、具体的な内容についてご説明申し上げます。

本日のポイント

● 3Q累計の売上高、各段階利益は過去最高

- 売上高は前年同期比110.8%、菓子食品・冷菓・米国・事業子会社の好調が継続。
- 原材料価格高騰の影響を増収および価格改定効果で打ち返し、粗利率は同+1.3pt、営業利益率は同+2.7ptと収益性は着実に改善。

● 売上高、損益ともに通期業績予想を上方修正

- 23年11月業績予想より、売上高+10億円、営業利益+8億円の上方修正。
- 4Qにおいては、中長期の成長を見据えた経営基盤・事業への投資を一段と加速。

● 期末配当予想を上方修正

- 業績予想の上方修正に伴い、1株当たり配当金を52.5円→55.0円へ増配。
- 本日（2024年2月8日）、自己株式120.5万株^{*1}の消却を決議^{*2}。

本日のポイントについて申し上げます。

今年度第3四半期累計期間は、連結売上高、各段階利益ともに過去最高となりました。特に、菓子食品、冷菓、米国の各事業および国内事業子会社が好調を継続しまして、連結売上高は前年同期比110.8%と二桁成長となりました。営業利益も196億円と、前年同期と比較して143.2%の増益となり、V字回復は順調に進捗しております。原材料の高騰影響を依然として受けておりますが、主に増収と価格改定効果で打ち返しております。

第3四半期の好業績を考慮しまして、通期の業績予想を昨年11月に発表した予想値から上方修正いたしました。なお、第4四半期においては中長期の成長を見据え、経営基盤や事業強化のための投資を一段と加速させていく予定です。

期末配当の予想につきましても、一株当たり配当金を52円50銭から55円に増配し、9期連続の増配を予想しております。また、本日開催の取締役会で、自己株式120万5,000株の消却を決議いたしました。

2024年3月期 第3四半期 実績

売上高および全ての段階利益で3Q累計として過去最高、業績V字回復に向けて順調な進捗

(単位：億円)	第3四半期 実績	前期比較	
売上高	1,637	+159	110.8%
売上総利益 〔売上総利益率〕	679 〔41.5%〕	+85 〔+1.3pt〕	114.3%
営業利益 〔営業利益率〕	196 〔12.0%〕	+59 〔+2.7pt〕	143.2%
経常利益	201	+62	144.2%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	139	+51	157.9%
EBITDA*1	267	+55	125.5%

森永製菓株式会社 *1 EBITDAは簡易版を使用→営業利益+減価償却費、* 在外子会社換算レートは1米ドル=138.11円（2023年1～9月の平均レート）

Copyright (C) Morinaga & Co., Ltd. All rights reserved. 4

それでは、具体的な内容についてご説明いたします。まず、第3四半期の連結損益実績です。

売上高が1,637億円、前年比較で159億円の増収、率では110.8%の二桁成長となりました。

営業利益は196億円で、前年比較で143.2%の増益、営業利益率は2.7ポイント改善し、12.0%となりました。

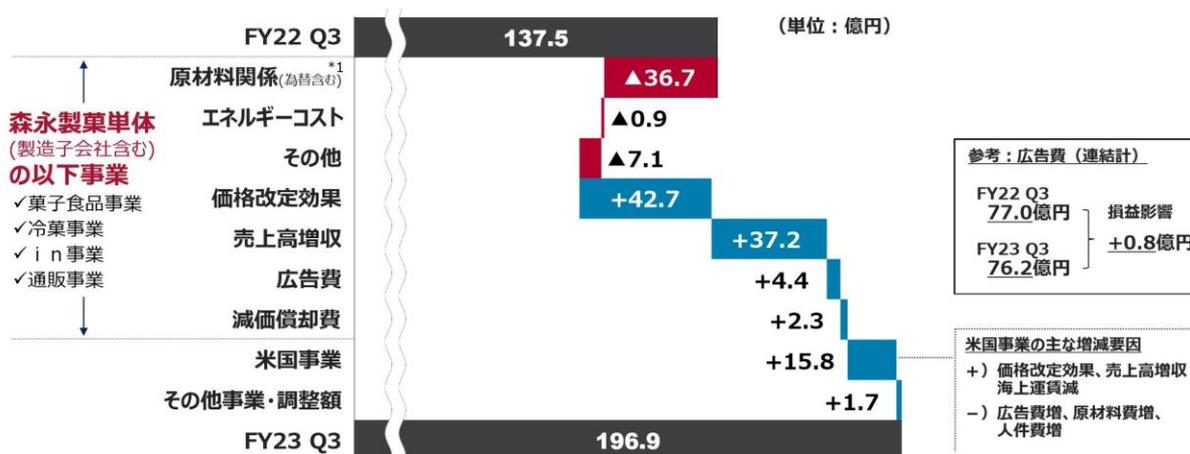
親会社株主に帰属する四半期純利益は139億円で、前年比較で157.9%となり、各段階利益も第3四半期累計期間としては過去最高となりました。

第3四半期期間においては特に、菓子食品、冷菓事業が牽引しました。前年実績あるいは昨年11月時点の会社計画と比較して、ともに大幅に増収増益となりました。また、収益性改善も進んでいます。

原材料高騰の影響は、概ね予想どおりに発生しております。DX等の戦略的な投資を実行している中で、増収および価格改定効果による打ち返しによって、収益性は順調に改善しています。また、増収によって固定費の吸収が進んだことも、収益性の改善に寄与しております。

2024年3月期 第3四半期 実績：営業利益増減要因

原材料等のコスト影響を菓子食品・冷菓を中心に増収および価格改定効果により打ち返し
米国の利益拡大も寄与



森永製菓株式会社 *1 FY22 Q3 実績調達レートは 1米ドル=123.85円、FY23 Q3は 同135.80円

Copyright (C) Morinaga & Co., Ltd. All rights reserved. 5

営業利益の増減要因です。減益要因は赤色、増益要因を青色で記載しております。

まず、円安影響も含めた原材料関係の高騰影響によるコストが、36.7億円の増加です。昨年11月に発表した通期の予想では、47.6億円としておりますので、その77%とほぼ予想に近い水準で推移しております。カカオ関係の高騰は継続しておりますが、海外乳製品や糖化製品などはやや緩和傾向となってきております。

また、エネルギーコストは前年並みの水準に落ち着いてきております。

一方、価格改定効果と増収効果はそれぞれ42.7億円、37.2億円と着実に進展しており、打ち返し策は順調です。

米国事業の成長も引き続き増益に貢献しております。なお、広告費につきましては、連結全体で前年並みの水準です。第4四半期中長期の成長を見据えた戦略的な投入を予定しております。

2024年3月期 第3四半期 実績：事業別サマリー

菓子食品・冷蔵・米国・事業子会社が増収を牽引し、収益性も大幅に改善

(単位：億円)	売上高			営業利益			営業利益率	
	第3四半期 実績	前期比較		第3四半期 実績	前期比較		第3四半期 実績	前期比較
菓子食品事業 ^{*1}	581	+40	107.4%	36	+27	378.7%	6.3%	+4.5pt
冷蔵事業	372	+44	113.5%	51	+17	150.7%	14.0%	+3.5pt
i n 事業 ^{*1}	253	+2	100.9%	61	▲3	95.2%	24.1%	▲1.4pt
通販事業	81	+4	105.3%	5	+1	108.2%	6.5%	+0.2pt
事業子会社	129	+19	117.2%	10	+4	148.7%	8.0%	+1.7pt
その他	9	+1	110.9%	▲5	▲6	—	—	—
国内計	1,428	+111	108.4%	159	+38	131.7%	11.2%	+2.0pt
米国事業 ^{*2*}	148	+40	136.4%	28	+16	225.0%	19.2%	+7.6pt
中国・台湾・輸出等	61	+9	116.8%	6	+1	134.5%	11.0%	+1.4pt
海外計	209	+48	130.0%	35	+18	199.3%	16.8%	+5.8pt
連結計	1,637	+159	110.8%	196	+59	143.2%	12.0%	+2.7pt

森永製菓株式会社 *1 i nブランドを冠したキャンディ、チョコレート等の商品は菓子食品事業に含む、*2 中国・台湾の米国向け輸出に係る利益を含む
*3 現地通貨ベースの売上高前期比は126.5%

Copyright (C) Morinaga & Co., Ltd. All rights reserved. 6

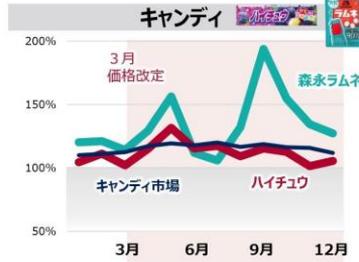
事業別に業績を見ますと、国内外の各事業で売上成長を実現しました。

国内の菓子食品事業は増収増益となり、特に営業利益率は前年と比較しまして、大きく改善しました。収益性の高いビスケットやキャンディカテゴリーの売上成長、価格改定効果などが収益性改善に寄与しています。

米国事業は、市場と HI-CHEW とともに価格改定による数量影響は見られますが、二桁の伸長を継続しております。引き続き、中長期を見据えた取組みを強化してまいります。

2024年3月期 第3四半期：国内市場のトピックス【菓子】

販売金額 前年比^{*1}



4-12月累計	
森永ビスケット	119.0%
市場	103.6%

- 「ムーンライト」戦略（2年目）好調継続
- 定期的な新商品発売によりブランド全体で露出を強化

ムーンライト仕立てのチョコチップクッキー、チョコシュークリーム、バターショコラ

4-12月累計	
ハイチュウ	113.3%
森永ラムネ	136.3%
市場	116.9%

- ハイチュウは食感訴求の商品展開、コラボ品好調
- 受験生応援企画 森永ラムネ好調

うるぷらコラボ品、超大箱ラムネ

4-12月累計	
ダース	134.7%
カレ・ド・ショコラ	97.3%
市場	104.0%

- 高単価高付加価値のダース新商品が寄与
- カレ・ド・ショコラ基幹品は堅調も新商品が苦戦

半熟ダース、ダースプレミアム

森永製菓株式会社

*1 インデックスSRI+ 推計販売規模金額、*2 3月価格改定はダースのみ

Copyright (C) Morinaga & Co., Ltd. All rights reserved. 7

次に、事業戦略の進捗についてポイントをご説明いたします。

ビスケット市場は堅調に推移しております。その中で森永ビスケットは、ムーンライトを中心とした積極的なプロモーションと商品展開により好調を継続しております。

キャンディ市場は人流の回復による追い風とグミカテゴリーの好調が目立ちます。当社のハイチュウは、食感を訴求した商品展開やプロモーション、新商品の発売により、好調を継続しております。森永ラムネは受験シーズンの取組みが功を奏し、大幅に伸長しました。

チョコレート市場は前年比微増となっておりますが、無垢チョコレートは苦戦しました。その中でダースは戦術の見直しを実施しており、高価格帯商品の発売が寄与しております。

2024年3月期 第3四半期：国内市場のトピックス【冷菓】

販売金額 前年比^{*1}



4-12月累計	
当社冷菓	116.4%
市場	111.1%

- 主カブランドに集中したコミュニケーション戦略が奏功しシェア2位に^{*2}
- 板チョコアイス：品質価値を訴求したプロモーションによりザ・クレープ 基幹品・新商品好調
- アイスボックス：オケージョン拡大戦略により秋冬の需要を喚起、取扱率・購入率ともにアップ

4-12月累計	
チョコモナカジャンボ	111.4%
市場	111.1%

- 過去最高購入率を達成
メディア露出拡大も後押し
- チョコ増量 冬季限定品好調

4-12月累計	
バニラモナカジャンボ	120.3%
市場	111.1%

- 品質の独自性を訴求したプロモーションが奏功
- バニラのコクを引き立てた冬季限定品好調

森永製菓株式会社 *1 インデックスSRI+ 推計販売規模金額、*2 インデックスSRI+ 推計販売規模金額 移動年計2023年1月-12月

Copyright (C) Morinaga & Co., Ltd. All rights reserved. 8

冷菓市場は、秋以降も好天候による追い風を受け市場全体が好調な中、当社は主力ブランドに集中したコミュニケーション戦略が功を奏し、市場を上回る成長を実現し、シェア2位に上昇しました。

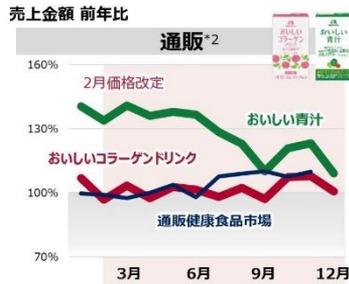
ジャンボグループは品質リニューアル、プロモーション活動の強化、冬期限定品などの貢献により、好調を持続しております。特にチョコモナカジャンボはメディア露出の拡大も後押しし、過去最高の購入率を達成しました。

2024年3月期 第3四半期：国内・米国市場のトピックス



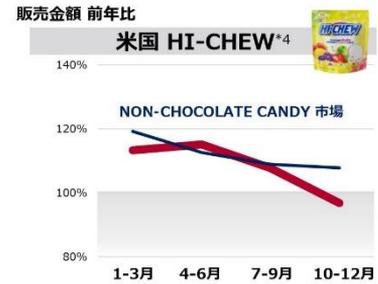
4-12月累計	
i nゼリー	108.5%
市場	110.1%

- CVS・ドラッグチャネルでの店頭回転が好調
- 「考えるためのエネルギー」として「ブドウ糖」が好調、受験シーズンに合わせ広告強化



4-12月累計	
おいしいコラーゲンドリンク	101.6%
おいしい青汁	123.9%
市場 ^{*3}	105.8%

- 広告強化による定期顧客の更なる拡大、長期定着に向けた取組みを継続



1-9月累計	
HI-CHEW	111.9%
市場	113.3%

- 認知率向上と購買喚起を狙い、品質価値を訴求した新作TVCMを投入

※10-12月は2022年11月実施の価格改定の一巡等の影響により、伸長率が鈍化

森永製菓株式会社 *1 インテーンSRI+ 推計販売規模金額

*2 当社出荷金額、総務省統計局 家計調査「健康ネット通販」支出(データ公開日の都合上記載は11月まで)、*3 2023年4-11月累計、*4 IRI

Copyright (C) Morinaga & Co., Ltd. All rights reserved. 9

次に、i nゼリーです。市場全体は、人流回復に伴い好調です。i nゼリーは、第3四半期まで前年のコロナ特需の影響による反動がありますが、コンビニを中心に店頭回転は好調です。受験シーズンに合わせて、広告強化を行ったことで、ブドウ糖が好調に推移しています。

通販事業は、定期顧客の拡大に向けて、下期より積極的に広告投資を実施しております。あわせて、定期顧客の長期定着に向けた取組みの強化を継続しています。

米国事業のHI-CHEWは、市場、HI-CHEWともに価格改定による数量の影響が見られますが、二桁伸長を継続しています。品質価値を訴求した新作テレビコマーシャルの投入で、認知率の向上と購買喚起に取り組むなど、広告投資を強化してまいります。

なお、10-12月期の成長率の鈍化は、2022年11月実施の価格改定による効果が一巡した影響です。足元では店頭回転もやや落ち着いていますが、引き続き取扱率と認知率の向上を図り、新たな商品展開によるSKU数の増加で顧客接点の拡大を目指しております。今後も中長期的な事業成長を見据えて、積極的な経営資源の投下を行う方針です。

2024年3月期業績予想

菓子食品・冷菓の伸長により、売上高、各段階利益いずれも前回業績予想を上回る見通し

(単位：億円)	通期予想	前期比較		前回予想比較*2	
売上高	2,110	+167	108.6%	+10	100.5%
売上総利益 〔売上総利益率〕	860 〔40.8%〕	+94 〔+1.4pt〕	112.3%	+7	100.8%
営業利益 〔営業利益率〕	195 〔9.2%〕	+43 〔+1.4pt〕	128.0%	+8	104.3%
経常利益	201	+44	127.9%	+10	105.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	142	+42	141.2%	+6	104.4%
EBITDA*1	290	+37	114.6%	+8	102.8%

森永製菓株式会社 *1 EBITDAは簡易版を使用→営業利益+減価償却費、*2 2023年11月10日における2024年3月期業績予想値
* 今回発表予想の前提となる在外子会社換算レートは1米ドル=140.56円（2023年1月~12月の平均レート）、前回予想時の前提は139.58円 Copyright (C) Morinaga & Co., Ltd. All rights reserved. 11

次に、2024年3月期業績予想についてです。

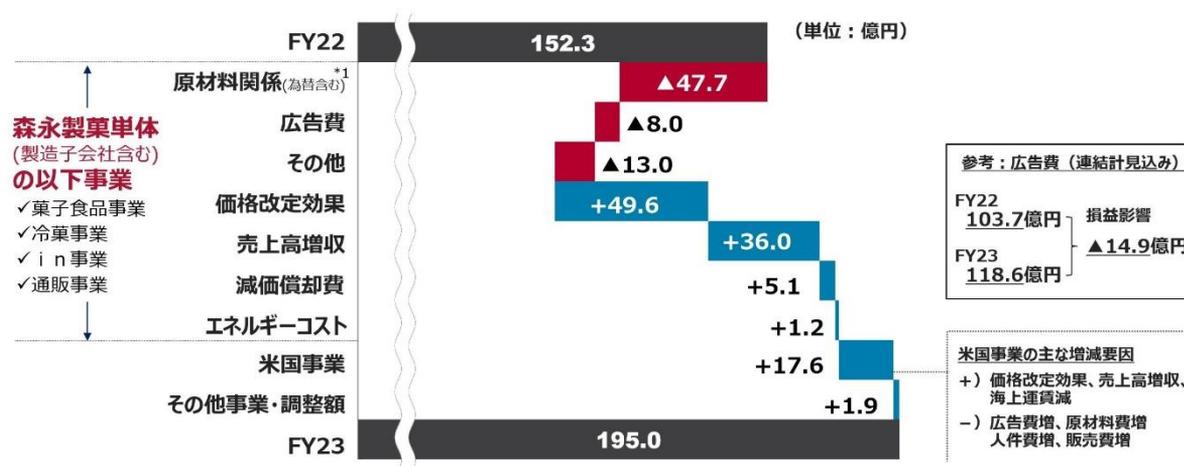
2023年11月10日時点の業績予想と比較して、売上高は10億円上方修正の2,110億円、営業利益は8億円上方修正の195億円、親会社株主に帰属する当期純利益は6億円上方修正の142億円です。

足元の経営環境は、コスト高騰の影響にピークアウトの兆しが見える一方で、高騰が続くカカオなどの原料もあります。円安や不安定な国際情勢の長期化による影響も含め、依然として経営環境の不透明さは継続している認識であり、楽観視はしておりません。厳しい経営環境の中、中長期成長と足元のバランスを重視したマネジメントを徹底してまいりました。トップラインの継続的な成長、価格改定を中心とした打ち返し策により、収益性の改善は図れています。

一方、2030経営計画の達成を目指す上では、環境変化への対応力をさらに高めていく必要があると考えております。

2024年3月期 業績予想：営業利益増減要因

原材料高騰の影響を増収および価格改定効果で打ち返し
積極的な広告・DX投資により、次期中計に向けた事業成長の加速と経営基盤の構築を目指す



森永製菓株式会社 *1 FY22 実績調達レートは 1米ドル=128.09円、FY23 予想調達レートは 同137.12円

Copyright (C) Morinaga & Co., Ltd. All rights reserved. 12

通期業績予想の営業利益増減要因のグラフです。

原材料関係は、11月時点からほぼ変わらず、通期で47.7億円の水準を見込んでおり、依然として影響は残ります。

エネルギーコストは、通期で概ね前年並みと見込んでおります。

通期でも原材料の高騰による影響を、増収および価格改定効果、米国事業の成長で打ち返し、業績のV字回復を図る構造になっております。第4四半期にはin事業、冷菓事業のさらなる成長、通販事業の事業基盤の拡大、米国事業の中長期的な成長に向けた、戦略的な広告投資を行います。経営基盤の構築に向けたDX投資の推進も含め、中長期の企業価値向上を見据えた戦略的な投資を実行します。

2024年3月期 業績予想：事業別サマリー

全事業で前期比増収見込み／菓子食品・冷菓は原材料高騰の影響を打ち返し通期で収益性改善
i n・通販は次期中計における成長を見据え、積極的に広告投資

(単位：億円)	売上高			営業利益			営業利益率			
	通期予想	前期比較	前回予想比較 ^{*4}	通期予想	前期比較	前回予想比較 ^{*4}	通期予想	前期比較		
菓子食品事業 ^{*1}	776	+33	104.6%	+6	36	+21	234.0%	+7	4.6%	+2.5pt
冷菓事業	453	+48	111.9%	+13	47	+13	138.1%	+4	10.5%	+2.0pt
i n事業 ^{*1}	313	+7	102.5%	▲1	64	▲6	92.2%	+0	20.6%	▲2.3pt
通販事業	108	+6	105.3%	▲2	1	▲5	23.4%	▲3	1.4%	▲5.0pt
事業子会社	175	+19	112.2%	+2	13	+4	140.4%	+0	7.9%	+1.5pt
その他	13	+1	104.1%	+1	▲6	▲4	—	▲0	—	—
国内計	1,841	+115	106.6%	+18	156	+23	117.2%	+7	8.5%	+0.7pt
米国事業 ^{*2*}	191	+45	130.7%	▲9	32	+18	218.9%	+2	16.9%	+6.8pt
中国・台湾・輸出等	77	+7	109.5%	+0	4	▲1	79.9%	+0	5.9%	▲2.2pt
海外計	268	+51	123.8%	▲9	36	+16	180.2%	+2	13.7%	+4.3pt
連結計	2,110	+167	108.6%	+10	195	+43	128.0%	+8	9.2%	+1.4pt

森永製菓株式会社 *1 i nブランドを冠したキャンディ、チョコレート等の商品は菓子食品事業に含む、*2 中国・台湾の米国向け輸出に係る利益を含む
*3 現地通貨ベースの売上高前期比は122.2%、*4 2023年11月10日における2024年3月期業績予想値

Copyright (C) Morinaga & Co., Ltd. All rights reserved. 13

事業別の通期の売上高、営業利益の見込みです。

全事業で前期比増収の見込み、菓子食品事業および冷菓事業は、原材料高騰の影響を打ち返し、通期で収益性の改善を実現できる見込みです。

価格改定予定

原材料価格高騰、物流コスト上昇の打ち返し策として、菓子商品で価格改定・内容量変更を予定
今後も市場動向を注視し、必要に応じて機動的に対応を検討

事業	実施内容	実施日	改定率/変更率	対象品
菓子食品事業	価格改定	2024年4月1日 出荷分より	3.3%~18.0%	キャンディ、チョコレート、スナック各種 (一部商品除く)
	内容量変更	2024年3月12日 発売分より	▲14.3%	カレ・ド・ショコラ各種 (3品目)

2024年4月に価格改定を実施します。原材料価格の高騰、物流コストの上昇への対応として実施しますが、依然として先行きは不透明であり、今回の価格改定で全てのコスト高騰の影響を吸収できるとは考えておりません。引き続き、コスト環境、消費動向、競合の動きなどを見極めながら、必要に応じて機動的な対応を図ってまいります。

株主還元

資本コストを意識した経営の実践として、財務戦略に基づき継続的かつ安定的な株主還元を実行
 一株当たり配当金を52.5円→55.0円へ増配、自己株式消却を決議

1 配当金の増配

期首予想より**2.5円増配**し、**55.0円**へ



森永製菓株式会社 *1 2023年5月16日における2024年3月期業績予想値、*2 2024年2月8日における2024年3月期業績予想値、*3 当該会計期間に係る剰余金過剰の額を記載
 *4 2024年1月1日を効力発生日として、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施。FY22以前の数値は株式分割を遡及適用した数値
 *5 役員報酬BIP信託が保有する当社株式(34,181株)を除く

2 自己株式の消却

2023年11月14日
 自己株式 **602,500株** 取得
 (株式分割後**1,205,000株**に相当)

2024年3月15日
120.5万株を消却 予定
 (消却前の発行済株式総数に対する割合 1.28%)

消却後の発行済株式総数に対する
 自己株式^{*5}の割合 **2.19%**

Copyright (C) Morinaga & Co., Ltd. All rights reserved. 15

最後に、株主還元について説明いたします。

当社グループは株主の皆様への利益還元について、経営基盤の盤石化のもとに財務戦略に基づき、継続的かつ安定的な株主還元を実施することを基本方針としております。

基本方針に基づき、通期配当予想を上方修正する見込みです。1株当たり配当金を期首予想の52円50銭から、55円とします。9年連続増配の見込みです。また、本日の取締役会で、自己株式120万5,000株を消却することを決議いたしました。

以上、ご清聴ありがとうございました。

【ご注意事項】

将来予測・業績予想について

本資料には、当社（連結子会社を含む）の見通し、計画、目標など将来に関する記述が含まれておりますが、これらは当社が現在入手している情報に基づく判断や仮定を基礎としたものであり、将来における当社の実際の業績または展開と異なる場合があります。